



2022年度 研究報告

新しい時代で学び続ける 児童生徒を育てる

～「生涯学習力」を高める授業づくりを通して～



秋田大学教育文化学部附属特別支援学校



新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる ～「生涯学習力」を高める授業づくりを通して～

研究主題設定の理由

過年度研究の成果

令和3年度は児童生徒の「生涯学習力」を高めるための基盤整備について、3つのワーキンググループ(WG)を立ち上げ、研究に取り組んだ。

【実践】

- 「授業づくりWG」
- 「地域とつながるWG」
- 「オリジナルマップ活用推進WG」

【成果】

- ・学部ごとに「生涯学習力」を意識し、目標を明確に設定し、児童生徒の「生涯学習力」を検討することができた。
- ・マップを活用することで、自分を充実させる(ヒト・モノ・コト)に気付くことができた。
- ・地域とゆるやかなネットワークを構築するための方法の提案ができた。
- ・全校縦割りグループで取り組んだことで、児童生徒の将来を見通しながら学習内容を検討することができた。

「生涯学習力」

主体的にヒト・モノ・コトに関わり
生涯にわたって学びに向かい成長しようとする力

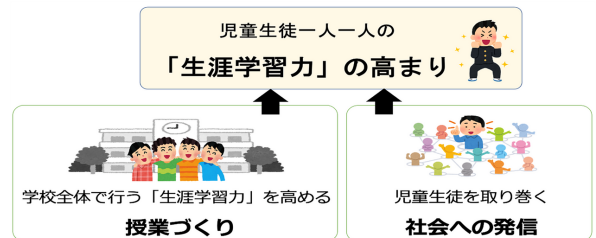


図1 「生涯学習力」の高まり

以上の成果を基に、令和4年度の研究では、これまでの本校での研究成果を生かしながら児童生徒がこれからの変化の激しい時代の中でも生涯にわたって学び続ける力を高めてほしいと願い、「生涯学習力」を高めるための授業実践に焦点を当てて「生活単元学習」の授業で取り組むこととした(図1)。

研究の方法と内容

研究の方法と内容は次の3つである。

- ・「わかはとモデル」を活用した授業実践
- ・各学部のつながりを考慮した単元構想や指導内容の検討
- ・児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿や変容の共有

今年度から「生涯学習力」を高める授業づくりの研究に当たり、本校では学び続ける児童生徒を育て、卒業後の将来の視点を踏まえた「生涯学習力」を高める要素として「わかはとモデル」を作成した。この「わかはとモデル」は授業づくりのポイントとして活用するものであり、授業づくりを通して検証をした(図2)。

授業づくりを充実するためには児童生徒の「生涯学習力」が高まる姿を教師が具体的に思い描き、「生涯学習力」を高める要素を授業の中でどのように設定するかなどが重要となる。そこで、学部の枠を越えた全校縦割りグループで様々な意見・アイデアを出し合う単元検討会(つながりミーティング)を実施し、「わかはとモデル」の要素の学部間のつながりや、授業の中での具体的なアイデアを出し合い、他学部の視点を授業づくりに生かした(図3)。

児童生徒の変容の共有もつながりミーティングの中で進めた。児童生徒の変容や成長が見られたこと、児童生徒の姿、教師の見取りなどの意見を出し合い、考察した(図4)。

視点	小学部	中学部	高等部
人と関わる	なかまといっしょに	人とつながりをつくろう	人とのつながりを広げよう
情報を集める	見てみよう・聞いてみよう	見て聞いて調べよう	経験を生かそう
試す	やってみよう	試してみよう	挑戦し続けよう
自分を知る	好きなことを知ろう	いろいろな自分を知ろう	なりたい自分を知ろう

様々なことに興味・関心をもつことが大事であり、「生涯学習力」を高めるための基盤となる【夢中】【好奇心】

図2 「生涯学習力」を高める要素 「わかはとモデル」

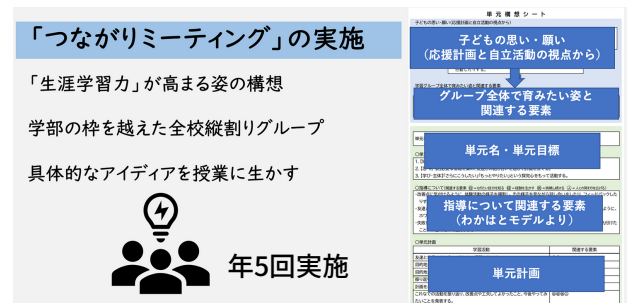


図3 「つながりミーティング」の実施

児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿や変容の共有

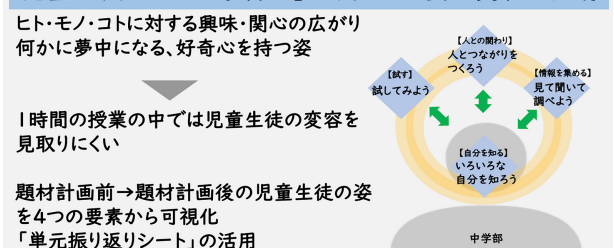


図4 児童生徒の「生涯学習力」が高まった姿や変容の共有



はじめに

小学部では、令和3年度より「生涯学習力」を高めるための授業づくりとして「エンジョイタイム」を新設し、生活単元学習の中に位置付けて、実践研究を行ってきた(図5)。

今年度は、「生涯学習力」を高めるために授業で大切にしている要素である「わかはとモデル」を中心に授業づくりを行い、「モデル」の妥当性を検証すること、児童の姿の見取り方や評価の観点を整理することを目的とし、学級ごとに単元を構成した。

小学部 エンジョイタイムと「生涯学習力」 「生涯学習力」 主体的にヒト・モノ・コトに関わり 生涯にわたって学びに向かい 成長しようとする力

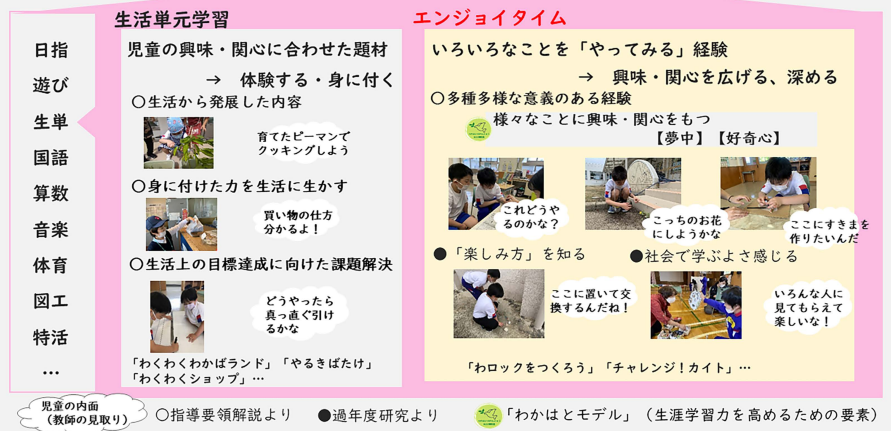


図5 生活単元学習における「エンジョイタイム」の位置付け

「エンジョイタイム」の定義

安心できる環境において、自分の得意な関わり方で、ヒト・モノ・コトに関わる経験を積み重ね、「生涯学習力」の素地を育む時間。
興味・関心を広げたり、深めたりすること、自分の好きなモノやコトを知ることが、主なねらいである。

授業づくりの実際

あおば学級(5・6年生)「みえない力でうごかさう」

「わかはとモデル」における特に高めたい要素と児童の姿【好奇心】

- ・導入での教師の手本を見て「やりたい」「もう一回やって」と伝えたり、手を伸ばして触ろうとしたり、じーっと見たりする姿
- ・活動が始まるとすぐおもちゃを手にとって活動する姿
- ・休み時間に、風やゴムを使って遊ぶ姿

【試す】

- ・風の強さやゴムの太さなどを変えて何度もやってみる姿
- ・うまくいかないときにやり方を変えてやってみる姿
- ・「こうするとどうなるかな」などといろいろ試してみる姿

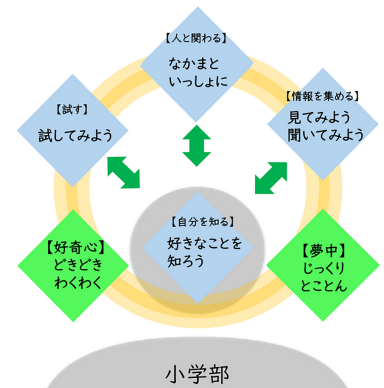


図6 小学部の「わかはとモデル」



〈授業者のしかけ〉

様々なゴムの力を試すことができるように、簡単に着脱できる複数の種類のゴムを用意した。



見本の一覧を見ながらゴムを選ぶ児童

【児童の様子】

- ・4種類のゴムを見比べて、自分で選んだゴムをパチンコに付けて、的当てをした。
- ・遊んでいてゴムが外れたときに、友達や教師の使っているゴムの色に注目して、新しいゴムを選び、パチンコに付け替えて遊んだ。



〈授業者のしかけ〉

ゴムの力を使ったおもちゃの楽しさを感じられるように、全員で「ゴムロケット」に触れる機会を設定した。



友達が「ロケット」を飛ばす様子に注目する児童

【児童の様子】

- ・友達が「ゴムロケット」を飛ばす様子をよく見ていた。
- ・繰り返し友達が飛ばす様子を見ることで「ゴムロケット」の飛ばし方が分かり、自分でやってみようとしていた。
- ・的をたくさん倒す様子を見て、「2チームでやりたい」など、アイデアが膨らんだ児童もいた。

わかば学級（3・4年生）「チャレンジ！カイト」

「わかばとモデル」における特に高めたい要素と児童の姿

- 【夢中】 ・カイトの作り方の手順が分かり、自分なりに素材にじっくり向き合う姿
・繰り返しカイトをあげてみようとする姿
- 【好奇心】 ・カイトの作り方を知りたいと思う姿 ・好きな素材を選んでカイトを作る姿
- 【人と関わる】 ・自分が知っているカイトのあげ方や、カイトをあげて気付いたことを友達に伝える姿
・友達の話を聞き、受け止める姿 ・自分のやりたいことを友達や教師に伝える姿
- 【試す】 ・高くあがる方法を考えながら、繰り返しあげようとする姿



〈授業者のしかけ〉

友達の姿から気付きを促すために、カイトをあげている姿を動画で振り返るなどの場面を設定する。



カイトをあげている様子を振り返る

【児童の様子】

- ・高くあげている友達のカイトの作り方に興味をもち、見たり質問したりした。
- ・画像を見て、自分のカイトや友達のカイトが高くあがっていることに気付いて嬉しそうにしていた。
- ・「ここがよかった」などと、写真を指さして具体的によかった点を友達や教師に伝える姿が見られた。



〈授業者のしかけ〉

友達と考えを共有して制作できるように、前時までと同じ方法で制作できる複数のカイトを提示する。



「わかばイカカイト」を全員で作る

【児童の様子】

- ・次に制作するカイトを自分たちで選択することで、全員で作る気持ちが高まり、「〇〇さん、ここ押さえて」「この穴塞いでね」など、児童同士で声を掛け合いながら一つのカイトを制作した。

まとめ

「生涯学習力」を高める授業づくり

児童一人一人の教育的ニーズから「エンジョイタイム」で扱う内容を検討し、「わかばとモデル」において、特に膨らませたい要素を整理することで、授業中に期待する児童の姿を明らかにすることができた。期待する児童の姿を引き出すためのしかけづくりを中心に授業づくりを行った。

児童がどのようにヒト・モノ・コトに関わり、何を楽しんでいるのか、複数の教員で児童の姿を見取ることで、「生涯学習力」の素地となる、「わかばとモデル」の要素の膨らみを見立てることができた。

児童の変容

- ・新しいことを「やってみよう」とする姿が増えた。
- ・じっくりモノに関わり、自分なりに楽しむ姿が見られた。
- ・「エンジョイタイム」の時間を楽しみにして、自由な発想で楽しめるようになってきた。
- ・自分の好きなことをきっかけに、友達のよさに気づき、認める姿が見られた。

教師の関わり方の変容

- ・題材の設定に幅をもたせて、余暇につながる題材や単元を検討・実施できた。
- ・児童に寄り添った見取りをすることで、児童の興味・関心を理解しようとする視点をもつことができた。
- ・「わかばとモデル」の要素を基に児童を見取ることで、中学部や高等部へのつながりを意識した視点で成長を見ることができるようになってきた。

今後に向けて

「わかばとモデル」の各要素が膨んだ児童の姿を、整理・分類することで、「エンジョイタイム」以外の学習場面でも活用できる「生涯学習力」を高める視点を構築できるのではないかと考える。

児童の姿を複数人の視点で見取るための方法を検討し、「私の応援計画」との関連を整理することで、児童一人一人の「生涯学習力」の素地の育成に寄与できると考える。

令和4年度の授業実践



「わかばとモデル」を膨らませる実践

<成果>

- ・新しいことをやってみる楽しさを感じる姿
- ・自分なりの方法で「ヒト・モノ・コト」へ向き合う姿
- ・「生涯学習力」の素地を育む視点での授業づくり
- ・児童の内面に寄り添った見取りと評価

○児童の姿 ○教師の変容



はじめに

令和3年度は、生徒一人一人の「生涯学習力」を高めるための基盤整備を行い、授業実践をしながら必要な要素を検討した。作業学習を対象授業としたが、作業学習以外でも「生涯学習力」を高めるための検証が必要と考えた。そこで、令和4年度は、学校の教育活動全体を通して児童生徒の「生涯学習力」を高めるための要素を精査し、「わかはとモデル」を作成した。

生活単元学習を対象授業とし、「わかはとモデル」を授業づくりのポイントとして活用していくこととした。

中学部 生活単元学習
「わかはとモデル」を授業づくりとして活用
【人と関わる】【情報を集める】【試す】【自分を知る】



- <中1> 中1ふしぎ発見～商店街を調べよう～
地域の通町商店街にインタビューをし、調べたことを発表したり、クイズでまとめたりする活動。
- <中2> 中2ピザ7～〇〇と交流しよう～
ピザづくりを知ってもらうために、クイズやダンスを企画して交流したり、ピザと一緒に作ったりする活動。
- <中3> 中3ファイブでバイキンO計画～あたらしいチャレンジパート〇～
修学旅行で体験した石けんづくりを中学部の他クラスに紹介したり、一緒に石けんを作ったりする活動。

授業づくりの実際

中2 ピザ7～交流会をしよう～

「わかはとモデル」における特に高めたい要素と生徒の姿
【人と関わる】

- ・ 歌詞を決める場面で話し合い活動の場を設定することで、自分の考えを伝えたり、友達の意見を受け入れたりする姿
- ・ ペアやグループの学習で自分の気持ちを伝えたり、友達の気持ちを受け入れたりしながら課題解決する姿
- ・ 友達やグループのよさを認めたり、知ったりして次に生かそうとする姿

【試す】

- ・ これまでの経験を思い出しながら、交流相手が喜んでくれるように準備したり、工夫したりして交流する姿

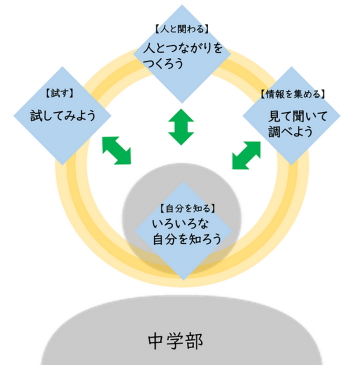
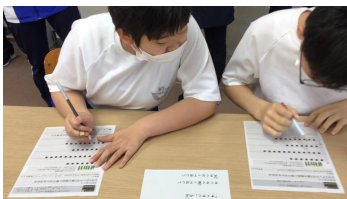


図7 中学部の「わかはとモデル」



〈授業者のしかけ〉

ピザ7ダンスの歌詞を決めるために、話し合い活動でワークシートやミニキーボードを活用する。



ペアで歌詞を考えている様子

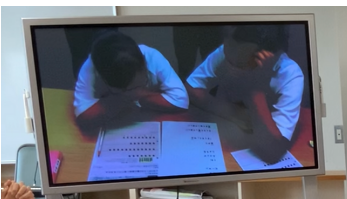
【生徒の様子】

- ・ ワークシートの歌詞を入れる音数を●で表示したことで、それを手掛かりにして考えていた。
- ・ 「ペアでの話し合い」→「全体での話し合い」をすることで、3つの意見が出てきた。歌詞が決まるまでに時間がかかったが、みんなの意見から歌詞と振り付けを決めることができた。



〈授業者のしかけ〉

授業の最後の振り返りで話し合いや振り付けの様子の動画を見る機会を設定する。



動画で振り返りをする様子

【生徒の様子】

- ・ 動画を見る場面では、他グループも話し合いをしていたことが分かり、友達も頑張っていたことを知ることができた。
- ・ ワークシートへの振り返りの記入では、「歌詞を考えることは難しかったけど振り付けを決めることが楽しかった」と記入していた。



ピザ7交流会 プラ板キーホルダーづくり



ピザ7交流会 ピザづくり



「わかはとモデル」における特に高めたい要素と生徒の姿

【人と関わる】

- ・作り方を教える役割を工程ごとに設定することで、自信をもって石けん作りのポイントを伝えながらやり取りをする姿

【情報を集める】

- ・自分たちが作った石けんについての感想を聞くことができるように、ポイントを意識してインタビューしたり、役割分担をしたりして進める姿

【自分を知る】

- ・自分の活動を振り返られるように評価の基準を示すことで、全員が同じ目標に向かって活動に向かう姿

〈授業者のしかけ〉



評価の基準を具体的に示したり、毎時間、本時の目標を「めあてのポイント」として提示したりした。

〈めあてのポイント〉 11月18日

【伝え方】

はつきりと相手に伝える声の大きさ

目を見て

名前をよぶ

笑顔

【生徒の様子】

- ・生徒とのやり取りを踏まえて「声の大きさ、相手の目を見る、笑顔、名前を呼ぶ」の中から1～2つを選んで目標にすることで、全員が同じ目標に向かって活動することができた。

〈授業者のしかけ〉



目標に対しての評価基準を簡単な言葉やイラストで示したり、他者の評価を聞く機会を設定したりした。

〈めあてのポイント〉 11月18日

【伝え方】	めあて	達成	達成	達成
きこえるこえで、名前をよべた。	◎	◎	◎	◎
名前をよべたが、こえが小さかった。	○	○	○	○
名前をよべなかった。	△	△	△	△

【生徒の様子】

- ・自己評価に加えて他者評価を取り入れたことで、自分のうまくできたことや次に頑張りたいことに向き合えるようになった。

まとめ

「生涯学習力」を高める授業づくり

- ・生徒の主体性に学習の展開を任せ、試行錯誤をする、うまくいかない経験をするなど解決方法を調べたり、話し合ったりして生徒が考える場の設定を意図的に取り入れた。
- ・写真や動画で客観的に振り返る時間を授業のまとめで取り入れた。自分のことを振り返るだけではなく、友達の様子についても関心をもち、より具体的な目標や次時の自分の姿を思い描くことにつながった。

生徒の変容

- ・生徒に任せる場面が増えたことで、生徒同士がタブレット端末を使って調べる、情報を集めるなど仲間と一緒に課題解決する経験を積むことができ、自信をもって調べ学習に取り組むようになった。
- ・「一人では難しいけど、みんなとやったらできた」「楽しい」など仲間とチャレンジする姿が見られるようになった。
- ・クラスで学んだことを他学年や他学部の児童生徒に伝える、発表する機会を設定し、相手に伝わるためにはどうしたよいか考える、困った場面は生徒同士で助け合うなど、自然な関わりが増えた。

教師の関わり方の変容

- ・見守る支援
- ・生徒の発信を待つ
- ・できるだけ必要最低限のアドバイスをする
- ・失敗してもよいというスタンスで支援する
- ・生徒の発想やアイデアを活かした授業展開

今後に向けて

「わかはとモデル」はまだ改善の余地があると感じる。「私の応援計画」から導き出される生徒の思いや願いを大切にしながら授業計画を考えているが、そこに「わかはとモデル」の要素を組み込んで「私の応援計画」を作成し、授業づくり、家庭、地域と共に「生涯学習力」を高めていくことにつなげていきたいと考える。

令和4年度の授業実践

「生涯学習力」を高めるための支援

＜成果＞

- ・挑戦する気持ちや前向きな姿
- ・分からないことは調べようとする姿
- ・生徒主体で進め、生徒同士で考える授業づくり
- ・写真や動画で客観的に振り返る設定

○生徒の姿 ○教師の変容

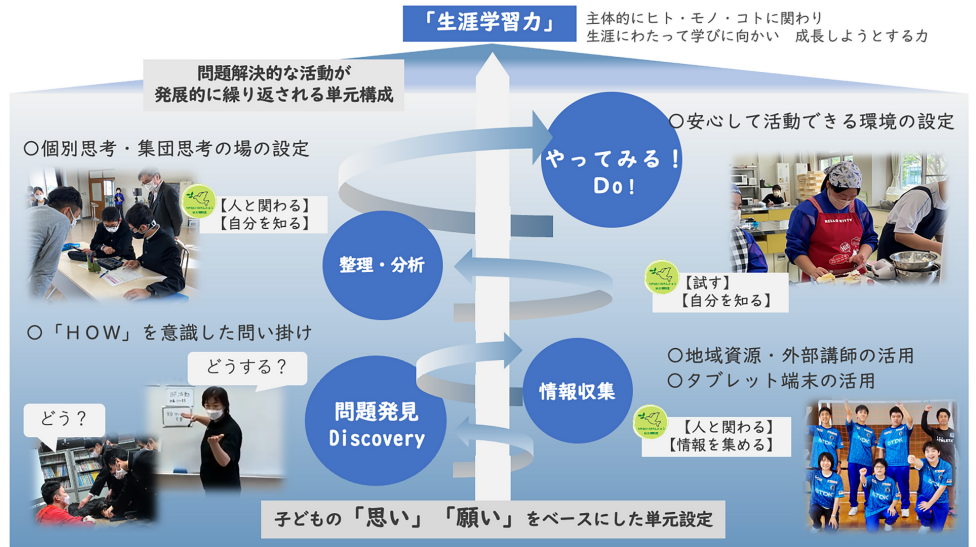


はじめに

高等部における研究対象授業『Dスタディ』は、「生涯学習力」を高めることを目的とした学習として令和元年度から実施している。

令和4年度、この『Dスタディ』を「生涯学習力」を高めるための探究型の学習プロセスを導入した生活単元学習として提案した。右図に示すよう、Dスタディでは、生徒の教育的ニーズや知的好奇心を基盤としながら、問題発見、問題解決に向けた情報の収集、情報の整理・分析、そして実行といった問題解決的な活動が発展的に繰り返される単元を構成している。

Dスタディ = 「生涯学習力」を高めるための探究型の学習プロセスを導入した生活単元学習



授業づくりの実際

Dスタディ雪グループ 雪グループの挑戦 其の二 ～行ってみよう!～

「わかはとモデル」における特に高めたい要素と生徒の姿

【情報を集める】

- これまでの経験や学びを生かしながら、生徒間で必要な情報を共有する姿
- 電車の切符を購入するために必要な情報を自分が選択した方法で収集する姿

【試す】

- 自分から切符の購入練習に繰り返し取り組む姿
- 切符の購入練習でうまくいかないことがあっても、もう一度行ってみようとする姿

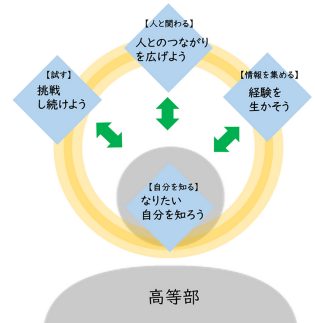


図8 高等部の「わかはとモデル」

〈授業者のしかけ〉



見たこと、聞いたことがある情報を言語化する活動を通して、その言葉をキーワードに調べる活動へとつなげられるよう、導入時に調べる内容をクイズ方式で確認した。



クイズを行っている様子

【生徒の様子】

- 写真を手掛かりに自分が持っている知識について積極的に発言しようとする姿が見られた。
- 「切符を買う機械」→「券売機」のように、クイズを通して授業で取り扱うものの名称を確認できた。

〈授業者のしかけ〉



一人で切符を購入することへの自信がもてるよう、着目するポイントとして運賃表をホワイトボードに掲示したり、タブレット端末で券売機と同様に購入手順を確認できるようにしたりし、切符の購入練習に繰り返し取り組めるようにした。

【生徒の様子】

- 券売機と同じように作成されたタッチパネル教材に興味をもち、全員意欲的に練習に取り組んだ。
- 購入手順が途中で分からなくなったり、押すボタンを間違えたりしても、もう一度取り組もうとする姿が見られた。
- 繰り返し練習できたことで自信をもち、普段発言の少ない生徒が自ら挙手して切符の購入手順を説明することができた。



券売機を模したタッチパネル教材

「わかはとモデル」における特に高めたい要素と生徒の姿

【人と関わる】

- ・サッカーの練習方法について、プロスポーツチームの指導者から教えていただいた内容をわかりやすく伝えられるように、「わかりやすく伝えるためのポイント」を基準として友達とよりよい字幕の付け方について話し合いながら動画を編集する姿

【挑戦する】

- ・動画制作アプリを使い、「わかりやすく伝えるためのポイント」を意識し、字体や色、文字の配置場所など試行錯誤しながら字幕を編集する姿

〈授業者のしかけ〉



生徒たちが考えた「わかりやすく伝えるためのポイント」を授業の導入時に一緒に確認したり、ポイントを意識できるよう字幕編集をする場所に「わかりやすく伝えるためのポイント」を提示したりした。

【生徒の様子】

- ・「わかりやすく伝えるためのポイント」を基準に、「この色にした方がよいのではないか」「文字の位置をもう少し変えた方がよいのではないか」など、一人一人が意見を出し合い、それぞれの考えを共有しながらより分かりやすい字幕を検討していた。

〈授業者のしかけ〉



一方の生徒だけの意見で話が進んでいかないよう、生徒の実態に配慮したペア編成にした。

【生徒の様子】

- ・スクリーンに映し出された様子から「わかりやすさ」についての考えを伝えたり、友達の意見を参考にしながらタブレットで字幕の編集作業をしたりする姿が見られた。
- ・友達と異なる意見を話す際も、相手の意見を尊重しながら発言する姿が見られた。



話し合いながら字幕を編集する様子

まとめ

「生涯学習力」を高める授業づくり

生涯学習力を高める授業づくりの過程で、*「私の応援計画」にある生徒の思い・願いと「わかはとモデル」で示される生涯学習力を高めるための要素が相互に作用されたことで、学部全体で生徒の「現在」を「未来」につなぐ「縦のつながり」の意識共有を図ることができた。

生徒の変容

- ・意思表示をする場面が増えた。
- ・自らやってみようという気持ちが見られた。
- ・自己解決できないことに対しての援助要請スキルが高まった。
- ・自分の好きなことややりたいことを積極的に発信するようになった。
- ・失敗したときや思い通りにならなかったときに、もう一度やってみようとする姿が増えた。
- ・日頃から生徒たちで話し合う場面が増えた。

教師の関わり方の変容

- ・卒業後、生徒が豊かに生活するために必要な力について検討し、その要素を取り入れた授業を考えた。
- ・「生徒が失敗しないように」から「生徒が失敗から何を学ぶか、どのように生かすか」と考えるようになった。
- ・生徒が自分の思いや願いを発信しやすいように安心して活動できる環境を整えることを大切にしたい。

令和4年度の授業実践



「縦のつながり」を意識した授業づくり

<成果>

- ・失敗を恐れずに行動に移す姿
- ・人に聞いたりタブレット端末を活用したりして情報を収集
- ・安心して活動できる環境の設定
- ・問題解決のプロセスを大切にしたい授業づくり

○生徒の姿 ○教師の変容

今後に向けて

高等部を卒業した生徒の姿から、「生涯学習力」を高める授業づくりを通して育まれた力が、社会の中でどのような形で発揮されているのかを見取れるよう、生徒の学び続ける姿を追っていくことが必要ではないかと考える。

*「私の応援計画」本校では、個別の教育支援計画を「私の応援計画」と名付けて教育課程の中心に据え、関係者と連携した支援を行うためのツールとして積極的に活用している。

研究の成果

「生涯学習力」を高める授業づくり

「わかはとモデル」を活用しながら、つながりミーティングを通して各学部のつながりを考え、授業づくりに取り組むことができた。学部ごとに授業づくりを進めてきたが、「わかはとモデル」の要素を活用したことで、自分の学部外の授業を参観した場合でも、どの要素を高めようとしているか、共通理解が得られたり、学部を越えたつながりについて考えたりすることができた。

各学部の「生涯学習力」を高める授業づくりのポイントは以下の通りである。

- 【小学部】 余暇につながるアイデアを出し合う授業づくり
- 【中学部】 生徒同士で解決方法を考えさせる授業づくり
- 【高等部】 卒業後の学びを見据えた授業づくり

「生涯学習力」を高める授業づくり



【小学部】
・学級ごとに工夫、経験を重視、継続して取り組む

【中学部】
・試行錯誤する、生徒に任せる、ペアや集団での学びを設定する

【高等部】
・地域社会とつながる、学び続ける基盤となる力を育む

児童生徒の変容

【小学部】

- ・初めての活動でもやってみようとする姿、じっくりと活動に取り組む姿、自分なりの楽しさを見付ける姿などが見られ、エンジョイタイムを楽しみにしている児童が増えた。

【中学部】

- ・友達とチャレンジする姿、自信をもって学級外の友達へ発表する姿、失敗してもまた挑戦する姿、分からないことは聞いたり調べたりする姿などが増えた。

【高等部】

- ・自分からの発信する姿、解決方法がいろいろあることを知る姿自分で解決できない場面で誰かに頼る姿など、生徒たち同士で必要な手段を使って解決しようとする姿が増えた。

児童生徒の変容

【小学部】
・エンジョイタイムを楽しみにする児童
・じっくりとヒト・モノ・コトに関わる

【中学部】
・仲間と一緒に課題解決が楽しい
・みんなと一緒にできた
・分からないことは調べよう

【高等部】
・失敗を恐れずに行動に移す
・人に聞く、タブレット端末で情報を収集
・必要なことを選択して実行



教師の関わり方の変容

【小学部】

- ・児童の心の動きに注目する
- ・子どもの目線で思いをくみ取る
- ・「ヒト・モノ・コト」にどのように関わっているか見る
- ・「より豊かに生きる力」へ意識をもって関わる

【中学部】

- ・見守る支援をする
- ・生徒の発信を待つ
- ・必要最低限のアドバイスをする
- ・失敗してもよいとする
- ・生徒の発想やアイデアを活かした授業を展開する

【高等部】

- ・「卒業後の学びがどうなっていくか」の視点で考え支援する
- ・生徒が困ったときに誰かに聞きに来るまで待つ
- ・失敗からどのように学び、どのように生かすか考える

教師が児童生徒に正解を提示するのではなく、寄り添うスタンスで支援し、児童生徒の主体性に任せたり、考えさせたりする場面を設定するようになり、授業のスタイルが変化した。

今後に向けて

「生涯学習力」を発揮し、学び続ける児童生徒を育てていくことを目指し「今」できることを考えて指導・支援をしてきた。「今」の実践をすることで児童生徒の「将来」がどのように変わっているのかまだ具体的に分かるものではないが、学校生活の中の「今」と「将来」を教師が見据え、さらには卒業後の「将来」へつながることができるような授業実践が必要と考える。そのために本校の特色である「私の応援計画」と「わかはとモデル」をうまく組み合わせることで、「生涯学習力」を高める授業づくりを通して育まれた力が、社会の中でどのような形で発揮されているのかを見取れるように、生徒の学び続ける姿を追っていくことが必要と考える。

第33回日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会秋田大会 令和4年度秋田大学教育文化学部附属特別支援学校公開研究協議会

「体験と熟議が生み出すつながりの場 ～秋田県生涯学習センターの障害者の生涯学習への挑戦～」

秋田県生涯学習センター 副主幹(兼)学習事業班長 柏木 睦 様

秋田大会

第33回 日本教育大学協会
全国特別支援教育研究部門合同研究集会

秋田県生涯学習センター 副主幹(兼)学習事業班長 ①
柏木 睦 氏

体験と熟議が生み出す **つながりの場**

高齢者の 自己学習 X
学校教育 家庭教育 自己学習
「あきたスマートカレッジ」

生涯学習
カウチの 社会教育は学校以外 X
声と結

つながる場 相互教育 → 体験・熟議
経験おこし 想像することできる

「あきたスマートカレッジ」
「障害者スポーツスペース」
思いを形にした場

「語り!」
「体験しよう!」
「知ろう!」

「結」
「友達。友達。みんな友達。」
スポーツ交流会

「あきたWith」
ゆるやかなネットワーク、支援の「協働」成長続き

楽「防災」考
しなげら えよう!

防災+食 → 必要感, 満足感のある学び

楽 結
ネットワーク 広がる

熟議とは?
いろいろな立場の人で、
テーマについて自分の思いを話し、
共通の目的に向けて自由に何ができるかを考える。

「特別支援学校でこそ」
「楽い学びの場」

「中心は子供たち」
「当事者と様々な人」
「熟議が必要!!」

「ベクトルを合わせる場」
「話し合う場をつくりたい。」
Q お子さん生涯学習を
続けているとは?
特になし 38.8%
全国
秋田 50.1%
スポーツ
余暇
学校で学んだ内容

トイレ・着替に困る・周囲の理解
交通手段がない・情報がない
バリア

※ 特に70歳以上の生涯学習の経験

③

車いすで街歩き 言葉のバリアフリー
 少しの段差でも ガタガタ 行動のバリアフリー

体験からいって 出さず言葉

見目の大事なものがあふる!

経験すること 想像することできる

場を作ることの大切さ
 !----> 場所・話す機会・必要感

仲間や味方は必ず見つける。

自分の限界も知る。

在学時から社会のつながり。

2022.11.19
 障害者の生涯学習



第33回日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会秋田大会
令和4年度秋田大学教育文化学部附属特別支援学校公開研究協議会

「生涯にわたって学び続けていく力を育むキャリア教育

—いまの学びと将来をつなぐ『対話』の意義と実際—

弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻 教授 菊地 一文 様

記念講演

生涯にわたって
学び続けていく
力を育むキャリア教育

—いまの学びと将来をつなぐ『対話』の意義と実際—

弘前大学大学院
教育学研究科
教職実践専攻
教授 菊地一文氏

① 学習指導要領における キャリア教育の位置づけ

④

成果

- 地域協働活動
- 授業課程改善

内面の育ちへの注

方向性

- 資質能力
- 主体的に学ぶ力
- やみくもにと思える力

どのように学ぶか?

深い

- 主体的
- 対話的 / 対話を重視

3つの柱

- 学級経営
- 生徒指導
- キャリア教育

昨日の公開授業のふりかえり

目的見通し 具体的説明

見聞き

成しとげよう!

言葉かけ

教師

高等部

中学部

どう判断、解決するか

共感

後押し

言葉で説明する

見聞き

教師

キャリア教育とは

- 社会的・職業的自立のため
- 基盤となる能力を育て
- キャリア発達を促す

社会の中で

自分の役割を果たす

自分らしい生き方を実現する過程

子どもをよく促さないと
気づけない!!

PATH TEM などの7-クが有効

⑤ 障害の重い児童生徒のキャリア教育

困難さ

可能性

本人

教師

励まし

認める

感謝

他者

CTも活用

受け手効果

開き手効果

年齢による役割

相互作用の中で変化する

「学ぶ」が大きい役割となる

ライフキャリアの虹

学校：遊ぶの役割を大きい

② 主体的・対話的で深い学び とキャリア発達支援

学ぶのは

本人!!

- 何のために?
- 他者との関わり
- 学びの過程

対話的な学び

ICT活用
生徒同士で
教師が言葉化
問われて応じる経験... 分からない時 目かけも求める

深い学び

⑥
観察
教師
何を学んでほしいのか?
生徒同士で
背景に学びの姿があると気が 価値づけ
対話

- 個々に起きるもの
- 毎時間 起きるわけではない

学ぶ側に立つ
教師の共感・肯定
安心できる
関係が前提

省察による学び

やりたい
“♥” → “!” → “?”
なりたい 願い
発言 思い
に着目

会話のちがい

- 相手に分かってもらいたいという気持ち
- 自己内対話に着目 聞き手の存在
- 問うことの重要性
- ふりかえり ← 熟議
- 対話促進、具体的方策 情報 整理

4つのC

Container
Contents
Context
Competency

加キャラクタ
マネジメント
が必要

各教科内のつながり
各教科間のつながり
具体的に活用場面のおかし
... 教材・IPと教材は教材!

3 共生社会の実現に向けた地域協働活動の推進

⑦
障害者の権利の条約
専門でない人にどう伝えるか?
バス清掃
自分がやったこと → 社会に役立てる
異なる人との関わり → 自分が変わっていく
リソースを発見 → 子どもたちの活動とつながり
幼児とのかわり

会場からQ&A

ヒト・モノとつながり時の関わり方で大切なものは?
地域 学校
対話が大切
ファシリテーターを社会教育が行うetc.

秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要 第45号 別冊
附属特別支援学校・令和4年度研究紀要 第49集 抄録

印刷・発行 令和5年3月
発行 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
〒010-0904 秋田市保戸野原の町7-75
TEL 018-862-8583
FAX 018-862-8525
研究紀要本文は本校HPを御覧ください。

本校HP



Instagram

